

# かながわ生きもの調査 ガイドブック



令和元年8月(令和4年3月更新)

## もくじ

はじめに	1
約束	1
かながわ生きもの調査の参加方法	2
生きもの図鑑（里山の生きもの）	3
生きもの図鑑（外来種）	15
掲載されている写真について	25
参考文献	26

## はじめに

みなさんは「生物多様性」という言葉を知っていますか。

「生物多様性」とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持っていることをいいます。こうした様々な自然や生きものたちが育む水や空気、食べ物などの恵みにより、私たちの暮らしは支えられています。そのことを理解し、生物多様性を守り、その恵みを将来に引き継いでいくことが大切です。

神奈川県にも、たくさんの生きものが生息しています。この調査は、身近な自然の中に  
せいそく生息・生育する個性豊かな生きものを探したり、発見した生きものを報告・共有したりすることで、楽しみながら生きものやそれらを取り巻く自然の大切さを、学んでいただくことを目的に実施するものです。

## 約束

次の約束を守って、かながわ生きもの調査に参加しましょう。

- 出かける時は、帽子、長袖、長ズボン、運動靴を着用しましょう。
  - こまめに水分補給をしましょう。
  - 小さな子どもは、大人と一緒に調査に出かけましょう。  
山や川での観察、夜の観察も大人と一緒に出かけましょう。
  - 生きものを他の場所から持ち込むのはやめましょう。
  - 弱っている生きものには触らず、傷つけないようにしましょう。
  - 観察をする時は、物音を立てるなど生きものの負担になるようなことをしないように気を付けましょう。  
また、周りにいる生きものを踏み荒らさないように気を付けましょう。
  - ハチやヘビ、毛虫、触れるとかぶれてしまう植物など、危険な生きものには近づかないようにしましょう。
  - 立入禁止の場所や流れの速い川、がけ等には近づかないようにしましょう。
  - 持ち主がいる土地には勝手に入らず、許可を取ってから入りましょう。
  - みんなが投稿した写真を他のことに使用することはやめましょう。
- ※生きものログに投稿された写真の著作権は撮影者にあります。

## かながわ生きもの調査の参加方法

### ステップ1: 「いきものログ」にユーザ登録をしよう



いきものログのホームページ (<https://ikilogbioticgo.jp/>) でユーザ登録をしましょう。

### ステップ2: 生きものを観察しよう



このガイドブックを持って、観察・撮影に出かけましょう。対象の生きものは3ページ～22ページに載っています。観察する時の参考にしてください。

### ステップ3: 観察結果を報告しよう



観察した結果をいきものログで報告しましょう。報告の方法については、県のホームページに載っている「いきものログの報告方法」をご覧ください。

### ステップ4: みんなの観察結果を見よう



県内にはどんな生きものがあるのか、いきものログを使って見てみましょう。



## ホンドタヌキ(ネコ目イヌ科)



提供：高桑正敏

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 里山、山野、都市部など

【特徴】 体長 40cm～50cm のすんぐりした体型が特徴です。脚は短く、前足に5本、後足に4本の指があります。足と目の周りが黒色をしています。尾は地面につかない長さで、アライグマのような輪模様はありません。イヌの仲間で木登りはほとんどしません。

【似ている種】 アライグマ： 尾にタヌキにはない輪模様があります。

ハクビシン： 鼻から頭のとっぺんにかけてタヌキにはない白い筋があります。

### 似ている種



アライグマ



ハクビシン

## ツバメ(スズメ目ツバメ科)



提供：相模原市立博物館

燕尾形

切れ込みがない



提供：相模原市立博物館

イワツバメ



提供：秦野市くずのはの家

コシアカツバメ

【見つけやすい時期】 4月～10月（※少数は冬でも見られることもあります。）

【見つけやすい環境】 市街地、農耕地、河川など

【特徴】 神奈川県には主に夏鳥として渡来し、家の軒先などに泥を使っておわん型の巣を作ります。全長は17cmほどで、頭から背中にかけて黒色、胸からお腹にかけて白色、額とのは赤色です。尾が長く、切れ込みの深い二股形（燕尾形）をしています。早口で複雑にさえすり、「土食って 虫食って しぶ〜い」と聞きなし（鳥のさえすりを人間の言葉やフレーズに置き換えて表現すること）をされます。

【似ている種】 イワツバメ： 額は黒色、のは白色、腰の白色がよく目立ちます。また、ツバメとは異なり、尾の切れ込みはありません。橋げたや高架の下、建物の軒下に集団で巣をつくります。

コシアカツバメ： 額は黒色、のは白色、頬と腰が赤茶色なのが特徴です。建物の軒下にとっくり型の巣を作ります。

## カワセミ(フツボウソウ目カワセミ科)



提供：神奈川県立生命の星・地球博物館



提供：神奈川県立生命の星・地球博物館

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 河川、湖沼、池

【特徴】 神奈川県では全域の水辺で1年を通して見られ、巣は土の崖に穴をほって作ります。

全長は17cmほどで、頭から背中にかけて青色、胸からお腹にかけてオレンジ色です。翼は上面が青色、下面はオレンジ色です。オスのくちばしは黒色、メスは下くちばしが赤色です。「チー」と鳴きながら飛びます。

## アオサギ(ペリカン目サギ科)



提供：加藤ゆき

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 河川、湖沼、海岸、農耕地

【特徴】 神奈川県では全域の水辺で1年を通して見られます。ほかのサギ類と集団で神社やお寺の林や雑木林、竹やぶなどに巣を作ります。全長は90cmほどで、頭からお腹にかけて白色、背中が灰色がかった青色です。目の上から後方にかけて黒い帯があり、後頭で長い冠羽(かんう：鳥の頭部からはえる羽)となります。足とくちばしは長く黄色です。首も長く、飛ぶときにS字に折りたたみます。「グー」と飛びながら鳴きます。

【似ている種】 コウノトリ： 翼の一部が黒色、それ以外は白色です。くちばしは黒色、脚は赤色です。

ダイサギ： アオサギと大きさが同じくらいで体形も似ていますが、全身が白色、くちばしは夏が黒色、冬は黄色です。

### 似ている種



提供：豊岡市

コウノトリ



提供：加藤ゆき

ダイサギ

## ニホンヤモリ<sup>ゆうりんもく</sup>(有鱗目ヤモリ科)



提供：相模原市立博物館

【見つけやすい時期】 4月～10月

【見つけやすい環境】 民家

【特徴】 灰色～褐色をした夜行性の爬虫類で、体の表面は細かい粒状のウロコにおおわれているため、柔らかいです。また、指の腹には一見すると板のようなウロコが並んでおり、これを顕微鏡で見ると、先端にフックのついた細かい毛の様な構造が確認できます。ファスナーの要領で、これを壁の表面に引掛け、壁を登っていると考えられています。

【似ている種】 ニホンカナヘビ： ニホンヤモリに比べて細身で、ウロコがガサガサしています。

ヒガシニホントカゲ： 体に縦じまがあり、光沢のあるツルツルとしたウロコをもっています。

### 似ている種



提供：神奈川県立生命の星・地球博物館

ニホンカナヘビ



提供：神奈川県立生命の星・地球博物館

ヒガシニホントカゲ



## サワガニ(カニ下目サワガニ科)



提供：神奈川県水産技術センター



提供：秦野市くずはの家

### 似ている種



提供：神奈川県水産技術センター

細かい毛が生えている

モクズガニ



提供：神奈川県水産技術センター

バンケイガニ



提供：神奈川県水産技術センター

クロバンケイガニ

【見つけやすい時期】 3月～11月

【見つけやすい環境】 河川の上流域とその周りの陸地 ※特に砂や小石の多い場所を好む

【特徴】 一生を淡水（塩分をほとんど含まない水）域で過ごす日本で唯一のカニです。若い個体は水から出ることはあまりなく、流れの緩やかな水中の小石の下などに潜っていますが、大型の個体は、周辺の湿地にも進出して穴を掘って生活しています。甲の幅が2cm～3cm、足も含めると5cm～7cmほどの大きさをしており、体の色は住む場所の環境によって赤色型、茶色型、青色型が存在します。

【似ている種】 モクズガニ： 河川や湖沼に生息しています。暗褐色をしており、大きいものでは甲の幅が6cm程あり、サワガニと違って甲は六角形のかたちをしており、ハサミに細かい毛が多く生えています。眼の後ろに左右3つずつのとげを持っています。

バンケイガニ： 汽水域（きすいいき：淡水と海水が混在した地域）周辺の草むらや河川敷などに生息しています。甲は四角く、眼の後ろに左右2つずつのとげを持っています。サワガニと違って足にある硬くて長い毛が目立ちます。

クロバンケイガニ： 汽水域周辺の草むらや河川敷などに生息しています。色は黒っぽく、甲には凹凸があり、眼の後ろに左右2つずつのとげを持っています。サワガニと違って、足にある硬くて長い毛が目立ちます。

# コクワガタ(コウチュウ目クワガタムシ科)



オス

内歯:1つ



メス

中心線

脛節:真っすぐ伸びている

## 似ている種



内歯:2つ(\*小型のものは1つ)



縦筋が目立つ



内歯と小歯



脛節:内側にカーブしている

スジクワガタ(左:オス 右:メス)

ヒラタクワガタ(左:オス 右:メス)

【見つけやすい時期】 5月～9月(成虫の時期)

【見つけやすい環境】 森林、公園の樹木など都市部小規模

【特徴】 クヌギやコナラなどの樹液に集まります。オスは、体長 17 mm～54 mmで、大アゴは細長く前方に向かって直線的に伸びており、先端で内側に向かって大きく曲がっています。大型のオスには、大アゴの中心よりやや先端に内歯ないしと呼ばれるトゲが1つあり、小型のオスには内歯はみられません。メスは、体長 20 mm～33 mmで、前ばねにははっきりとした縦筋はなく、中心線の両側にのみ光沢がみられます。脛節けいせつ(脚のスネの部分)が、真っすぐ直線的に伸びています。

【似ている種】 ヒラタクワガタ: オスは、大アゴの付け根から 1/3 辺りに大きな内歯が1つ、その先に細かな小歯小がついています。また、小型のオスは、前ばねの中央部全体に光沢が見られます。メスは、コクワガタと違って脛節が内側にカーブするような形になっており、小型のオスと同様光沢が見られます。

スジクワガタ: オスは、大型のものは大アゴの内歯が2つ融合した形状をしています。小型のものには大アゴの内歯が1つあり、前ばねには強い縦筋があります。メスは、小型のオスと同様、前ばねの縦すじが目立ちます。

## アキアカネ(トンボ目トンボ科)



オス



メス



黒条:先端がとんがっている

### 似ている種



ナツアカネ (左: オス 右: メス)



黒条:先端が角ばっている

【見つけやすい時期】 6月～12月 (成虫の時期)

【見つけやすい環境】 平地や丘陵地の池、水田

【特徴】 トンボ科アカネ属に分類される、トンボの1種です。オスもメスも3本の黒条(胸にある黒い線)の先端がとがっています。オスは、未成熟のうちには黄褐色で、成熟すると腹部が赤くなりますが、頭部と胸部は赤くなりません。メスは、成熟すると背中が褐色になりますが、オスほど色付きません。背中にある黒い模様は、あまり目立たず線状をしており、くびれのない直線的な腹部をしています。

【似ている種】 ナツアカネ: ナツアカネの胸部にある黒条は、アキアカネとは異なり、先端が断ち切れたように角ばっています。オスは、成熟すると頭部、胸部、腹部のすべてが赤く色付きます。メスは、背中にある黒い模様がアキアカネの線状のものとは異なり、四角っぽく目立ちます。また、腹部が直線的なアキアカネとは異なり、中程はくびれています。

## シオカラトンボ(トンボ目トンボ科)



オス



メス

### 似ている種



オオシオカラトンボ (左:オス 右:メス)



シオヤトンボ(左:オス 右:メス)

【見つけやすい時期】 4月～10月(成虫の時期)

【見つけやすい環境】 平地の湿地や池、里山、市街地

【特徴】 トンボ科シオカラトンボ属に分類され、全国に生息するトンボです。未成熟の間は黄褐色をしています。羽の付け根は透明です。オスは、成熟するに従って体の色を変え、背中に白色の粉を生じます。腹部は先端の1/3～半分程黒いのが特徴です。メスは、オスと体の色が異なり、成熟しても黒と黄褐色のしま模様をしています。そのため、「ムギワラトンボ」とも呼ばれています。また、腹部の先端が白いことも特徴の1つです。

【似ている種】 オオシオカラトンボ： シオカラトンボに比べて大きく、羽の付け根に黒い斑紋があります。オスは、腹部は青白く、先端の黒い部分は、シオカラトンボよりも短いです。また、シオカラトンボの目は青緑色をしているのに対し、オオシオカラトンボの目は黒褐色をしています。メスは、シオカラトンボよりもはっきりした黄色をしています。

シオヤトンボ： シオカラトンボに比べて小さく、腹部は太いです。オスは腹部の先端まで白っぽく、黒い部分がありません。メスは、シオカラトンボよりもはっきりした黄色をしています。

## ショウリョウバッタ(バッタ目バッタ科)



足が長い

### 似ている種



ショウリョウバッタモドキ



イボ状の突起がある

オンブバッタ

【見つけやすい時期】 7月～10月（成虫の時期）

【見つけやすい環境】 公園などの草地、グラウンドなど

【特徴】 オスの体長は 50 mm前後ですが、メスは 80mm～90 mmと日本に生息するバッタの中では最大とされています。大きさが極端に違うことはショウリョウバッタの特徴の1つです。また、後ろ足は長く、体色の違いから、緑色型と褐色型があります。

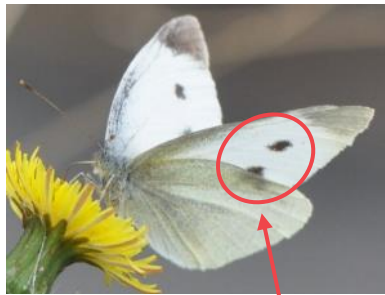
【似ている種】 オンブバッタ： ショウリョウバッタよりも小さく、目の後ろから胸部にかけてショウリョウバッタには見られないイボ状の突起があります。

ショウリョウバッタモドキ： ショウリョウバッタと同様スリムな体型をしています。ショウリョウバッタよりも小さく、後ろ足が短いです。

## モンシロチョウ(チョウ目シロチョウ科)



羽の先が黒い



2つの黒色の斑点

### 似ている種



付け根が黄色

スジグロシロチョウ

【見つけやすい時期】 3月～11月（成虫の時期）

【見つけやすい環境】 農地、公園、河川など

【特徴】 チョウ目・シロチョウ科に分類されるチョウの1種です。羽は全体的に白ですが、先端部分は黒色をしています。また、羽の中央には黒色の斑点が2つあります。春に発生する成虫（春型）と夏に発生する成虫（夏型）があり、春型の方が夏型よりも白っぽいです。

【似ている種】 スジグロシロチョウ： その名の通り、翅脈（しみやく：昆虫の羽にみられる脈）が黒いです。また、後ろ羽の付け根は、黄色をしています。

モンシロチョウは、奈良時代にダイコンや菜の花などのアブラナ科の作物が大陸に持ち込まれた際に、その葉に紛れて日本に移入された外来種だと推測されます。

## ナズナ(アブラナ科)



提供：相模原市立博物館



提供：田中徳久

【見つけやすい時期】 3月～6月（開花期）

【見つけやすい環境】 畑地、道端、空き地

【特徴】 高さは10cm～40cmです。春になると、茎が伸び、茎の先には直径約3mmの白い花を咲かせます。果実は6mm～7mmの平たい逆三角形をしています。見た目が三味線のばちに似ていることから、「三味線草」という別名があります。また、果実を茎から少しはがしてくるくる回すと、「ペンペン」と音がすることからペンペングサとも呼ばれています。

## カントウタンポポ(キク科)

総苞片が反り返っていない



提供：相模原市立博物館

【見つけやすい時期】 3月～5月（開花期）

【見つけやすい環境】 土堤、畑地、果樹園、道端など

【特徴】 日本原産の多年草（何年にもわたって花を咲かせる植物）で、高さ 10cm～30cmの茎の先端に直径 4cm程の黄色い花をつけます。総苞片（つぼみを包んでいた葉）は反り返っておらず、密着しています。

似ている種

総苞片が反り返っている



提供：相模原市立博物館

セイヨウタンポポ

## カワラナデシコ(ナデシコ科)



【見つけやすい時期】 6月～9月（開花期）

【見つけやすい環境】 草原、河原、海岸砂丘

【特徴】 高さ 30cm～50cmの多年草（何年にもわたって花を咲かせる植物）で、赤紫やピンク、白などの花を咲かせます。5枚の花びらの先が細かく裂けて細くなっているのが特徴です。花の中央には、10本の雄しべと、2本の花柱（雌しべの本体で、子房と柱頭を繋ぐもの）があります。



提供：田中徳久

## スギナ(ツクシ)(トクサ科)



提供: 秦野市くずはの家

【見つけやすい時期】 3月～4月（孢子茎）、5月～9月（栄養茎）

【見つけやすい環境】 山野、道端、市街地など

【特徴】 トクサ科の多年草（何年にもわたって花を咲かせる植物）です。茎は地下茎と地上茎からなり、地上茎には栄養茎と孢子茎の2種があります。早春にまず、黄土色をした高さ 10cm～25cm の孢子茎が出て、その後、緑色をした高さ 30cm～40cm の栄養茎が出現します。栄養茎は主軸に関節のある棒状の葉をつけます。栄養茎と孢子茎の見た目は全く異なるため、別の植物のように思われがちですが、実は地下茎で繋がっており、栄養茎をスギナ、孢子茎をツクシと呼びます。

## ヤマユリ(ユリ科)



提供: 相模原市立博物館

【見つけやすい時期】 6月～8月（開花期）

【見つけやすい環境】 海岸から山地の草原、林縁

【特徴】 高さ 1.0m～1.5mの茎の先端に、強い香りの、20cmほどの大きな花を咲かせます。1本の茎に1個～10個の白地に黄色い筋と赤い斑点が入った花をつけます。花被（がくと花卉の総称）が大きく反り返っていることも特徴の1つです。

ヤマユリは昭和26年（1951年）に県の花に選定されています。





※種名の先頭に★がついているものは「特定外来生物」です。

## ★アライグマ(食肉目アライグマ科)



提供：高桑正敏

ホンドタヌキ



提供：神奈川県自然環境保全センター

ハクビシン

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 森林、湿地、市街地 ※特に水辺を好む

【特徴】 北米大陸原産の雑食動物で、体長は40cm～60cm程度、顔の鼻から<sup>みげん</sup>眉間にかけてメガネのような黒い模様があるのが特徴です。耳は大きく白い縁取りがあり、ひげも白いです。尾には4つ～7つの輪の模様を持ちます。5本の長い指を持つ足は、人間の手のような形をしています。木登りが上手で、大木の洞などをねぐらにします。

【似ている種】 タヌキ： 体型や大きさは似ていますが、尾に輪模様がありません。

ハクビシン： タヌキと同様、体型や大きさは似ていますが、尾がアライグマよりも細長く、鼻筋が白いです。

## ★クリハラリス(台湾リス)(げっしもく齧歯目リス科)



提供：広谷浩子

### 似ている種



提供：相模原市立博物館

ニホンリス

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 常緑広葉樹林、市街地や公園の緑地 ※主に樹上で生活

【特徴】 中国～マレー半島に広く分布しています。尾までいれると40cm程の大きさで、元から日本にいるリスよりも大型です。体毛は短く、背は灰褐色、腹部は灰褐色や栗色をしています。耳が丸くて短いのも特徴です。

【似ている種】 ニホンリス： クリハラリス(台湾リス)に比べて少し小さく、腹は白色をしています。

## ハクビシン(食肉目ジャコウネコ科)



提供：神奈川県自然環境保全センター

### 似ている種



アraiguma



提供：高桑正敏

ホンドタヌキ

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 森林、果樹園、市街地

【特徴】 中国、東南アジア原産の雑食動物です。体長は90cm～110cm程で、顔は黒色ですが、鼻から頭のとてっぺんにかけて白い筋があります。また、前足、後足ともに指が5本あり、木登りが得意です。尾はとても長く、体と同じぐらいの長さがあります。

【似ている種】 アraiguma： ハクビシンのような白い筋はなく、尾には4つ～7つの輪の模様を持ちます。  
ホンドタヌキ： アraiguma同様、ハクビシンのような白い筋はなく、尾は地面につかない長さです。

## ★ガビチョウ(スズメ目チメドリ科)



提供：秦野市くずはの家

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 平地から山地にかけての林や竹やぶ、ヨシ原など ※特にしげみの中を好む

【特徴】 中国から東南アジア、台湾にかけて生息する小鳥です。日本にはもともと生息しておらず、愛玩用に輸入されたものが何らかの理由で逃げ出し定着しました。神奈川県では1年を通して見られます。全長は25cmほどで、全身が明るい茶色、目の周りから後方にかけてアイラインのように見える白い筋があります。「キョビー キョビー キョキョキョ」などとよく響く大きな声でさえずります。

## ★ソウシチョウ(スズメ目チメドリ科)



提供：秦野市くずはの家

【見つけやすい時期】 通年

【見つけやすい環境】 森林、竹林、笹やぶ

【特徴】 中国から東南アジアにかけて生息する小鳥です。日本にはもともと生息しておらず、愛玩用に輸入されたものが何らかの理由で逃げ出し定着しました。神奈川県では1年を通して見られます。

全長は15cmほどで、頭から背中にかけて暗緑色、頭とお腹は黄色実を帯びています。喉は黄色、くちばしは赤く、翼には黄色と濃赤色のまだら模様があります。「ピーピー グジュグジュ」などとよく響く大きな声でさえずります。

## ミシシippアカミミガメ(カメ目ヌマガメ科)



提供：相模原市立博物館

【見つけやすい時期】 4月～10月

【見つけやすい環境】 河川、湖沼、池

【特徴】 アメリカ原産の外来種で、最大の特徴である目の後ろの赤い線は名前の由来でもあります。皮膚は緑色で、黄色いしま模様を持ちます。背中の中羅は、なだらかなドーム状で、真ん中に1本の稜(りょう：すじ)が発達しています。腹の中羅は黄色いです。

【似ている種】 クサガメ： ミシシippアカミミガメの背中の中羅には、稜が1本しかないのに対して、クサガメには稜が3本あります。

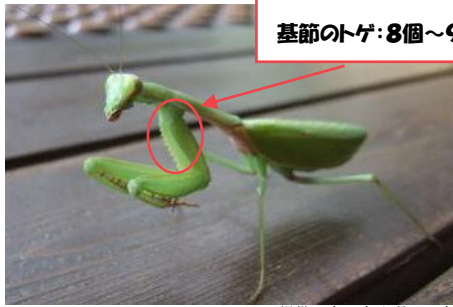
### 似ている種



提供：神奈川県立生命の星・地球博物館

### クサガメ

## ムネアカハラビロカマキリ(カマキリ目カマキリ科)



提供：秦野市くずはの家

【見つけやすい時期】 9月～11月（成虫の時期）

【見つけやすい環境】 草原、林縁

【特徴】 中華人民共和国から侵入したといわれている外来種です。体長は最大で8cm程と大きく、腹部の裏がピンク色をしており、胸が長いことが特徴です。また、基節（脚を構成する部位のうち最も根元に近い部分）には、小さな突起が8個～9個いています。

【似ている種】 ハラビロカマキリ： ムネアカハラビロカマキリと違って、腹部の裏はうすい黄色をしており、黒い模様がみられます。また、基節（脚を構成する部位のうち最も根元に近い部分）の突起の数も3個しかありません。

### 似ている種



提供：秦野市くずはの家

ハラビロカマキリ

## ★アカボシゴマダラ(チョウ目アゲハチョウ上科)



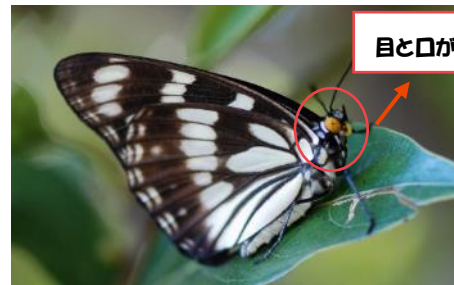
【見つけやすい時期】 4月～10月（成虫の時期）

【見つけやすい環境】 森林、農地、公園、河川

【特徴】 中国大陸原産の外来種です。羽は、黒地に白のまだら模様であり、しま模様にも見えます。また、後ろ羽の後部には赤色の模様をもちます。春になると羽の模様が白っぽくなった白化型が出現します。白化型の赤模様は通常消失します。

【似ている種】 ゴマダラチョウ： アカボシゴマダラと違って、後ろ羽の赤い模様がありません。また、目や口が黄色をしています。

### 似ている種



ゴマダラチョウ

## ★オオキンケイギク(キク科)



提供：相模原市立博物館



提供：田中徳久

### 似ている種



提供：相模原市立博物館

### キバナコスモス

【見つけやすい時期】 5月～7月（開花期）

【見つけやすい環境】 道端、河川敷、線路際、海岸など

【特徴】 キク科の多年草（何年にもわたって花を咲かせる植物）で原産地は北アメリカです。高さは30cm～70cmで、5月～7月にかけて直径7cm程のコスモスに似た黄橙色の花を咲かせます。茎の先に小さな花（舌状花と筒状花）が集まってできた頭状花で、舌状花の先端には不規則に4つ～5つのぎざぎざがあります。また、葉は細長いへら状をしています。

【似ている種】 キバナコスモス： オオキンケイギクとは開花時期が異なり、初秋に咲きます。また、舌状花のぎざぎざがオオキンケイギクに比べて少なく、葉は短くて切れ込みが多いです。

## ★オオハンゴンソウ(キク科)



提供：勝山輝男

### 似ている種



提供：田中徳久

### アラゲハンゴンソウ

【見つけやすい時期】 7月～10月（開花期）

【見つけやすい環境】 道端、荒地、畑地、湿原、河川敷など

【特徴】 北アメリカ原産の多年草（何年にもわたって花を咲かせる植物）。茎の先端に直径6cm～10cmの黄色い花を咲かせ、筒状花（真ん中の小さな花）は黄緑色をしています。葉は互生（互い違いについていること）で、1回～2回切れ込み、葉の裏には短い毛があります。

【似ている種】 アラゲハンゴンソウ： 筒状花は暗紫色をしています。また、オオハンゴンソウの茎には毛がありませんが、アラゲハンゴンソウの茎には粗い毛があります。葉は、オオハンゴンソウの葉が分裂するのに対し、アラゲハンゴンソウの葉は分裂しません。

## オオイヌノフグリ(オオバコ科)



提供：相模原市立博物館

【見つけやすい時期】 2月～6月（開花期）

【見つけやすい環境】 空き地、道端

【特徴】 ヨーロッパ原産で、径1 cmほどの瑠璃色るりの花を咲かせます。離弁花りべんか（花びらが根本で1枚1枚独立している花）のように見えますが、合弁花ごうべんか（花びらが根本でくっついて合体している花）です。また、茎は分かれ、横に広がります。

## ナガミヒナゲシ(ケシ科)



提供：秦野市くずはの家



提供：相模原市立博物館

【見つけやすい時期】 4月～6月（開花期）

【見つけやすい環境】 空き地、道端、畑地など

【特徴】 ヨーロッパ地中海沿岸原産の1年草（種をまいたその年のうちに芽がでて、花が咲き、種をつけ、枯れる植物）。高さ20 cm～60 cmであり、直径3 cm～6 cm程のオレンジ色の花を咲かせます。

## セイヨウタンポポ(キク科)

総苞片が反り返っている



提供：相模原市立博物館

似ている種

総苞片が反り返っていない



提供：相模原市立博物館

在来タンポポ

【見つけやすい時期】 3月～5月(開花期) ※11月頃まで開花する

【見つけやすい環境】 道端、空き地、グラウンドなど

【特徴】 ヨーロッパ原産の多年草(何年にもわたって花を咲かせる植物)で、高さ10cm～30cmの茎の先端に直径3cm程の黄色い花をつけます。総苞片そうほうへん(つぼみを包んでいた葉)が反り返っているのが特徴です。また、在来タンポポとの雑種が存在します。

【似ている種】 在来タンポポ： 総苞片が反り返っていません。また、在来タンポポの開花時期は3月～5月であるため、それ以外の時期に見かけたらセイヨウタンポポ、もしくは在来タンポポとの雑種の可能性が高いです。

## ★オオカワチシャ(ゴマノハグサ科)



提供：環境省



提供：環境省

【見つけやすい時期】 4月～9月(開花期)

【見つけやすい環境】 温帯～熱帯に分布、湖、沼、河川の岸辺、水田、湿地など

【特徴】 ゴマノハグサ科の一年～多年生草本で、ヨーロッパ～アジア北部が原産です。高さは0.3～1m、両性花で、蒴果は多数の種子を持ちます。5mmほどの淡紫色～白色の4深裂した花を多数つけます。



## ★ナガエツルノゲイトウ(ヒユ科)



提供：環境省



提供：環境省

【見つけやすい時期】 4月～10月(開花期)、通年

【見つけやすい環境】 水辺の湿った環境など

【特徴】 ヒユ科の多年草で、南アメリカ原産、茎は長さ 0.5～1 m、中空で太さ4mmに達します。白～灰色の花を咲かせ、葉は対生で無柄または1～6mmの短柄を持ちます。

## ★アレチウリ(ウリ科)



提供：環境省



似ている種

クズ

【見つけやすい時期】 8月～10月(開花期)

【見つけやすい環境】 温帯～熱帯に分布、林縁、荒地、河岸、河川敷、路傍、原野、畑地、樹園地、造林地など

【特徴】 ウリ科の一年生草本で、北アメリカ原産、茎の長さは数～十数mになり、群生することが多いです。葉は3～7裂、長柄があり、表面はざらついています。雌雄同株で、雌花は淡緑色で径6mmほど、雄花は黄白色で径1cmほどです。

【似ている種】 クズ： よく似た見た目をしていますが、アレチウリは茎から1枚ずつ独立した葉をつけ、他の植物に巻きつくための巻きひげがあるため、簡単に見分けることができます。

## ★オオアサモ(アリトウグサ科)



提供：環境省



提供：環境省

【見つけやすい時期】 6月(開花期)

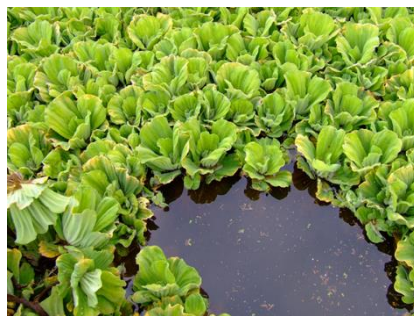
【見つけやすい環境】 温帯～熱帯に分布、湖沼、河川、池、水路、一部の休耕田など

【特徴】 アリトウグサ科の抽水性の多年草で、南アメリカ原産、茎は円柱状で太さ4～6mm、泥中または水中で分岐しながらほふくして1m以上に達します。水面からの高さは0.2～0.3m。

## ★ポタンウキクサ(サトイモ科)



提供：環境省



提供：環境省

【見つけやすい時期】 5月～10月(開花期)

【見つけやすい環境】 暖帯～熱帯に分布、池沼、河川、水田、水路など

【特徴】 サトイモ科の浮遊性の常緑多年草で、アフリカ原産、高さは10cm程度で、茎は短縮して広卵形～扇形の葉を重ねてつけます。

# 写真を御提供いただいたみなさま

(敬称略)

提供	ページ	種名	備考
環境省	p22	オオカワヂシャ	
	p23	ナガエツルノゲイトウ	
	p23 (左)	アレチウリ	
	p24	オオフサモ	
	p24	ボタンウキクサ	
神奈川県自然環境保全センター	p13 (左)	カワラナデシコ	
	p16、p17	ハクビシン	撮影日：2000年、撮影場所：自然環境保全センター
	p20 (左)	オオハンゴンソウ	
神奈川県水産技術センター内水面試験場	p7 (左)	サウガニ	
	p7	モクスガニ	
	p7	バンケイガニ	
	p7	クロバンケイガニ	
神奈川県立生命の星・地球博物館	表紙、p5 (左)	カワセミ	撮影者：加藤ゆき、資料番号：KPM-NQB 192
	p5 (右)	カワセミ	撮影者：加藤ゆき、資料番号：KPM-NQB 192
	p6	ニホンカナヘビ	撮影者：高橋理恵、資料番号：KPM-NQR 48B
	p6	ヒガシニホントカゲ	撮影者：川合英利、資料番号：KPM-NQR 41F
	p18	クサガメ	撮影者：瀬能宏、資料番号：KPM-NQR 19A
相模原市立博物館	表紙、p18	ミシシippアカミミガメ	撮影者：秋山幸也
	表紙、p20 (左)	オオキンケイギク	撮影者：秋山幸也
	p4	ツバメ	撮影者：秋山幸也
	p4	イワツバメ	撮影者：秋山幸也
	p6	ニホンヤモリ	撮影者：秋山幸也
	p12 (左)	ナズナ	撮影者：秋山幸也
	p13、p22	カントウタンポポ	撮影者：秋山幸也
	p13、p22	セイヨウタンポポ	撮影者：秋山幸也
	p14	ヤマユリ	撮影者：秋山幸也
	p16	ニホンリス	撮影者：秋山幸也
	p20	キバナコスモス	撮影者：秋山幸也
	p21	オオイヌノフグリ	撮影者：秋山幸也
	p21 (右)	ナガミヒナゲシ	撮影者：秋山幸也
	秦野市くずはの家	表紙	ヤマユリ
表紙、p19		ムネアカハラヒロカマキリ	
p4		コシアカツバメ	
p7 (右)		サウガニ	
p14		スギナ (ツクシ)	
p17		ガビチョウ	
p18		ソウシチョウ	
p19		ハラヒロカマキリ	
p21 (左)		ナガミヒナゲシ	
兵庫県豊岡市		p5	コウノトリ
勝山輝男	p19 (右)	オオハンゴンソウ	
加藤ゆき	p5	アオサギ	
加藤ゆき	p5	ダイサギ	
高桑正敏	p4、p16、p17	ホンドタヌキ	撮影日：2012年7月2日
田中徳久	p12 (右)	ナズナ	
	p13 (右)	カワラナデシコ	撮影日：2008年8月11日
	p20 (右)	オオキンケイギク	撮影日：2006年6月3日
	p20	アラゲハンゴンソウ	撮影日：2011年10月7日
広谷浩子	p16	クリハラリス (タイワンリス)	撮影日：2013年、撮影場所：鎌倉市
吉谷昭憲	表紙、p8	コクワガタ	
	p8	スジクワガタ	
	p8	ヒラタクワガタ (オス)	
	表紙、p9	アキアカネ	
	p9	ナツアカネ	
	p10	シオカラトンボ	
	p10	オオシオカラトンボ	
	p10	シオヤトンボ	
	p11	ショウリョウバッタ	
	p11	ショウリョウバッタモドキ	
	p11	オンブバッタ	
	p12	モンシロチョウ	
	p12	スジグロシロチョウ	
	p19	アカボシゴマダラ	
p19	ゴマダラチョウ		

## 参考文献

### 〈コクワガタ、ヒラタクワガタ、スジクワガタ〉

- 1 吉田賢治（2015）.フィールドガイド 日本に棲息する種類と見分け方、観察のポイントがわかる 日本のクワガタムシ・カブトムシ観察図鑑 誠文堂新光社, p32 p48 p54.

### 〈コクワガタ、ヒラタクワガタ、スジクワガタ〉

- 2 小野展嗣・小池啓一・田辺 力・町田龍一郎（2014）.小学館の図鑑 NEO〔新版〕昆虫 小学館, p70

### 〈ショウリョウバッタ、オンフバッタ、ショウリョウバッタモドキ〉.

- 3 槐真史（2017）. バッタハンドブック 文一総合出版, pp126-127 pp134-135 pp140-141 pp146-147.

### 〈モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、アカボシゴマダラ、ゴマダラチョウ〉

- 4 日本チョウ類保全協会（編）（2019）.フィールドガイド 増補改訂版 日本のチョウ誠文堂新光社, p94 p320.

### 〈モンシロチョウ〉

- 5 五箇公一（2017）.終わりなき侵略者との闘い 増え続ける外来生物 小学館, p143

### 〈コクワガタ、ヒラタクワガタ、ショウリョウバッタ、モンシロチョウ、ゴマダラチョウ、スジグロシロチョウ、ムネアカハラヒロカマキリ、アカボシゴマダラ〉

- 6 奥山清市・永幡嘉之（2017）.くらべてわかる昆虫 山と溪谷社, p20 p25 p30 p33 p84 p85.

### 〈オオカワキクサ、ナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオアサモ、ボタンウキクサ〉

- 7 環境省 HP 日本の外来種対策 特定外来生物等一覧  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>

### 〈オオカワキクサ、ナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオアサモ、ボタンウキクサ〉

- 8 国立環境研究所 HP 侵入生物データベース 日本の外来生物  
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/category.html>

## かながわ生きもの調査ガイドブック

発行年月： 令和元年8月（令和4年3月更新）

発行・編集： 神奈川県自然環境保全課緑地・自然公園グループ  
TEL 045-210-4310（直通）

編集協力： 加藤ゆき、佐藤武宏、鈴木聡、田中徳久、松本涼子（敬称略）  
（令和元年8月作成時点）  
（神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員）